

第43回 埼玉県新型コロナウイルス感染症専門家会議 概要

1. 日時：令和3年8月25日（水）17：00～18：30

2. 会場：庁議室

3. 委員（敬称略 五十音順）

岡部 信彦 川崎市健康安全研究所 所長（WEB参加）

金井 忠男 埼玉県医師会 会長

川名 明彦 防衛医科大学校 教授（WEB参加）

小谷野 和博 埼玉県中小企業団体中央会会長（WEB参加）

近藤 嘉 日本労働組合総連合会埼玉県連合会会長（WEB参加）

坂木 晴世 国際医療福祉大学大学院 准教授（WEB参加）

讚井 将満 自治医科大学附属さいたま医療センター 副センター長（WEB参加）

竹田 晋浩 かわぐち心臓呼吸器病院 理事長・院長（WEB参加）

松田 久美子 埼玉県看護協会 会長

光武 耕太郎 埼玉医科大学国際医療センター 教授（WEB参加）

三村 喜宏 埼玉県商工会連合会会長（WEB参加）

4. 県側参加者

大野 元裕 知事

高田 直芳 教育長（WEB参加）

安藤 宏 危機管理防災部長（WEB参加）

山崎 達也 福祉部長（WEB参加）

関本 建二 保健医療部長

星 永進 保健医療部参事

本多 麻夫 保健医療部 参事

板東 博之 産業労働部長（WEB参加）

岸本 剛 衛生研究所 副所長

5. 主な意見

ア 現状の分析・評価について

- 新規陽性者数の増加が鈍化しているものの、引き続き多くの新規陽性者が確認されており、その中で一定割合の入院を要する人々や重症者が出てくることに十分注意をする必要がある。（岡部委員）
- アドバイザリーボードによると、埼玉県は1都3県の中では依然として感染者急増中であり、繁華街の停留人口もむしろ増加傾向にあるということから、埼玉県は危険な状況にあるという評価である。（川名委員）
- 濃縮酸素の不足が深刻になっていると聞いている。機器の回収がボトルネックになっているようなので、県の方で何か手立てを行って欲しい。（讚井委員）
- 重症病床を更に増床して対応しているが、毎日満床の状態である。既に限界であり、この状況が一刻も早く解消されることを期待する。（竹田委員）
- 重症病床のひっ迫を防ぐために、抗体カクテル療法を有効に活用することは重要であるが、投与可能な医療機関は、同時に中等症や重症の患者も看ている状況であり、そもそも対象となる患者を収容するベッドがないなど、投与が難しい状況である。そのため、効率的、集中的に投与できる場を確保することが必要ではないか。（坂木委員）

イ 夏季休業終了後の県立学校の対応について

- 内容は適切と考える。学校が再開することで、クラスターが発生する可能性はあるが、仮に1校で発生したために、その地域を全て休校にすることは、むしろ悪影響の方が強いため、学校別あるいはクラス別に対策すべきである。（岡部委員）
- 大人の活動も制限しなければ、休校を延々と続けることになってしまうため、休校は現時点では適切な選択ではない。（坂木委員）
- 保健所の業務のひっ迫により、保健所から学校に対するアクセスが遅れがちとなり、部活動の停止や学級閉鎖の判断に遅れが生じている。そのため、

オンゴーイングでディスカッションや支援できる取り組みができるとよい。
(坂木委員)

ウ その他

- 県内の中小企業は、度重なる緊急事態宣言ということで、これがいつまで続くのかということで、不安と焦燥の中にあるのではないかと考えている。ぜひ、ここが正念場であるというような、丁寧な説明と一層の協力の呼びかけをお願いしたい。(小谷野委員)
- 当連合会としても、事業者への感染対策の徹底について、できる限りの協力を実施していくとともに、大変な苦境に立っている事業者の皆様への、伴走型支援を一層強化して、今後とも進めてまいりたい。(三村委員)